

曾根遺跡群 X

平原周辺遺跡

(6)

福岡県前原市国指定史跡「曾根遺跡群」

重要遺跡確認調査概要

前原市文化財調査報告書

第 59 集



1995

前原市教育委員会

序 文

平原遺跡は昭和40年に発見され故原田大六氏を中心に発掘調査が実施されました。当時のはのかな田園風景が広がっていたこの地にも、昭和50年代後半には宅地化の波が押し寄せ、現在では遺跡のすぐ傍にも住宅が建ち並ぶようになってまいりました。このことを憂慮した当教育委員会では、平原遺跡周辺の実態を把握するために昭和63年度から国・県の補助を受けまして確認調査を実施しているところであります。

本年度は、平成3～4年度に調査しました5号墓の北側の確認調査を実施いたしました。残念ながら5号墓に直接関連するような遺構は確認できませんでした。しかし、土坑、ピットなどが検出されており、弥生時代前期末から中期初頭にかけての集落が存在したことが確認されました。

昨今の不況下にあっても住宅建設は増加の途をたどっており、平原遺跡周辺においても例外ではありません。当教育委員会といたしましては今後にもさらに確認調査を実施するとともに、遺跡の保存・環境整備等様々な課題の解決に向けて一層の努力をいたす所存であります。

なお末筆となりましたが、発掘調査について快諾戴きました地権者の木村重成氏には深謝の意を表します。

平成7年3月31日

前原市教育委員会

教育長 樗 木 昭 生

例 言

1. 本書は平成6年度に国・県の補助を受けて前原市教育委員会が実施した平原周辺遺跡の重要遺跡確認緊急調査の概要報告である。
2. 本書に掲載した遺構実測図の作成は角 浩行、瓜生秀文、川上豊子、川上久美子、坂本悦子、市丸千賀子、藤木和子、米山八重子が行った。
3. 本書に掲載した図面の製図は角、瓜生が行った。
4. 本書に掲載した現場写真の撮影は角、瓜生が行い、平原遺跡出土品の写真は岡紀久夫の撮影によるものである。
5. 本書に示した方位は座標北である。
6. 本書の執筆、編集は角が行った。

本文目次

I. はじめに	1
1. 調査にいたる経過	1
2. 調査の組織	1
II. 調査の記録	3
1. 調査の概要	3
2. 遺構各説	6
III. おわりに	8

挿図目次

Fig. 1 平原遺跡周辺地籍図 (1/1,500)	1
Fig. 2 平原遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/10,000)	2
Fig. 3 平原遺跡と調査地点 (南西から)	3
Fig. 4 調査区全体図 (1/50)	4
Fig. 5 第7次調査トレンチ設定状況 (1/500)	5
Fig. 6 罌 棺	6
Fig. 7 1号土坑	6
Fig. 8 2号土坑	7
Fig. 9 調査区全景 (東から)	7
Fig. 10 第1～7次調査トレンチ位置図 (1/500)	9
Fig. 11 平原遺跡出土品 (重要文化財)	10

表目次

Tab. 1 平原周辺遺跡調査概要一覧

Tab.1 平原周辺遺跡調査概要一覧

調査年度	地番	遺跡の概要	備考
昭和 63	大字曾根 851-1、851-3	円形住居跡 2、異形建物跡 1、溝 1 など 住居はいずれも弥生中期初頭のもの	概報(1)
平成 元	大字有田 8	円形住居跡 1、土坑 2、溝 1 など 住居、土坑はいずれも弥生中期のもの、溝は中世?	概報(2)
平成 2	大字有田 6-2	円形住居跡 1、ピットなど 住居は弥生中期初頭のもの	概報(2)
平成 3～4	大字有田 3-3、4	方形周溝墓 1、円形住居跡 1、土坑 6、ピットなど 方形周溝墓は 8×7.5m、弥生後期初頭～前半? 主体部は木棺、周溝内に甕棺あり 円形住居跡、土坑は弥生中期初頭	概報(3) 概報(4)
平成 5	大字有田 7-2	円形住居跡 2、木棺墓 1、土坑 5、溝 1 など 溝は 1 号墓に関連するもの 円形住居跡、土坑は弥生前期末～中期初頭	概報(5)
平成 6	大字有田 7-5	甕棺 1、土坑 4、ピットなど 甕棺は弥生後期前半の小児棺 土坑は弥生前期末～中期初頭	概報(6) (本書)

※備考欄の「概報」は『平原周辺遺跡』の略

I. はじめに

1. 調査にいたる経過

平原遺跡（「国指定史跡曾根遺跡群」）周辺の重要遺跡確認緊急調査は昭和63年度から平成5年度まで6次にわたり実施している（岡部1990,1991 角1992,1993,1994）。昨年度までの調査で方形周溝墓1、円形住居跡7、木棺墓1、土坑、ピット等が確認されている。方形周溝墓（5号墓）は後期初頭～前半のもので1号墓との関連が注目される。また、住居跡はいずれも中期初頭～前半と考えられ、短期間ではあるが集落が存在していたことが判明した。また、夜白期のもと思われる土器片も出土しており、その時期の遺構の存在も予想される。このような状況の中で本年度は、平成3～4年度に調査した5号墓の北側の確認調査を行なうこととした。

指定地の北側については、平成元年度に大字有田8番地（岡部1991）、昨年度は7-2番地（角1994）の確認調査を実施している。その結果によると円形住居跡、土坑、ピットが検出されている。住居跡は弥生時代中期前半のもと考えられる。また、墳墓遺構と考えられるものは、木棺墓1と1号墓関連の溝のみである。

今年度は5号墓北側について墳墓遺構の広がりを確認することと、5号墓から北に延びる溝の続きを確認することを調査の目的とした。

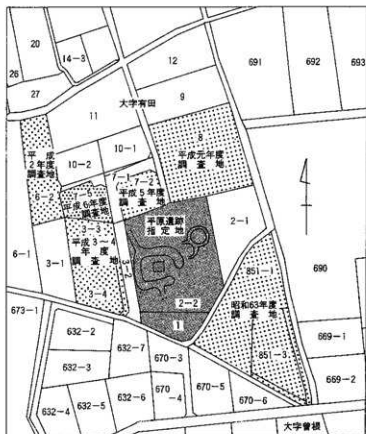


Fig.1 平原遺跡周辺地籍図(1/1,500)

2. 調査の組織

本年度の発掘調査に関わる組織は以下のとおりである。

地権者	木村重成	
調査主体	前原市教育委員会	
総括	教育長	榑木 昭生
	教育部長	中原 直国
	文化課長	井上 尚
	文化課文化財係長	川村 博
庶務	同 文化振興係長	清水 真澄
調査	同 文化財係主事	角 浩行・瓜生 秀文

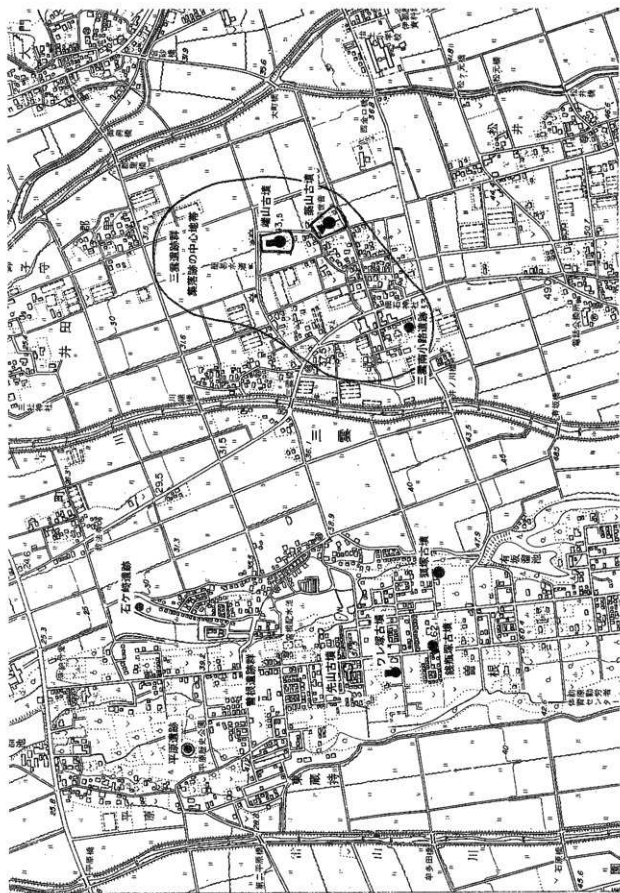


Fig. 2 平原遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/10,000)

Ⅱ. 調査の記録

1. 調査の概要

調査の承諾を得た7-5番地は以前は畑であったが、現在の地目は雑草地である。現状は雑草が生い茂り、小樹木が数本見られるような状況であった。そこで伐採の後に調査地の中央部に第1トレンチを設定した。トレンチは長さ10m、幅6.8mである。その後、西端を長さ6.8m、幅4.8m、南に拡張し最終的にはL字型となった。また、樹木の関係から調査ができない部分を除いて、第1トレンチの南側に長さ6.8m、幅4.3mの第2トレンチを設定した。これは5号墓から北にのびる溝の続きを確認するために設定した。

トレンチ設定の後人力により表土の除去を行い、遺構の検出を行なった。調査地点の層序は上層より黒褐色土層（表土、厚さ約5～10cm）、暗灰褐色混砂土層（耕作土、厚さ約10～15cm）、黄褐色粘質土層（地山）である。遺構は黄褐色粘質土層上面で検出された。検出した遺構は甕棺1、土坑4、ピット多数である。

今回の調査の目的のひとつであった、5号墓から北にのびる溝は残念ながら確認することができなかった。今年度の調査において検出した遺構は、甕棺1、土坑4、ピット多数のみであった。ピットについてはこれまでの調査に比べて、かなり多い印象を受けた。しかし、建物の柱穴となるような配置をとるものはないようである。

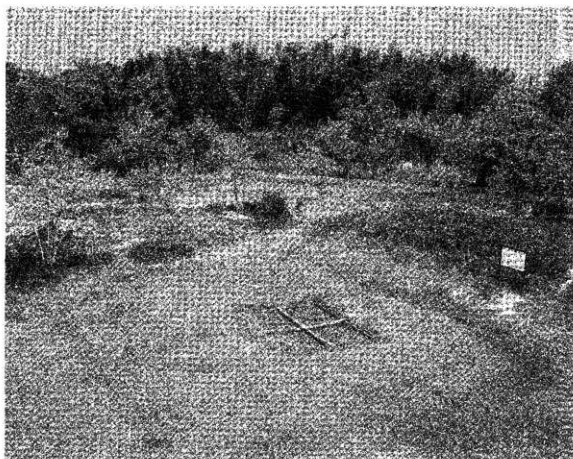


Fig. 3 平原遺跡と調査地点（南西から）



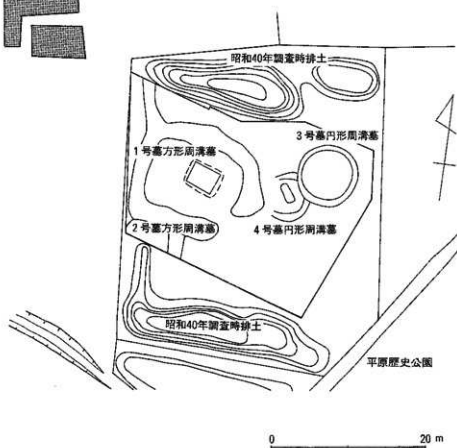
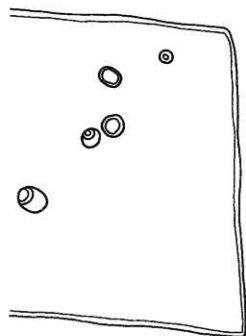
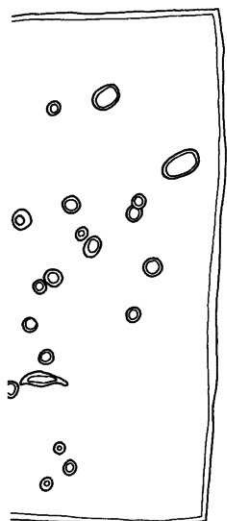


Fig. 5 第7次調査トレンチ設定状況 (1/500)

Fig. 4 調査区全体図 (1/50)

2. 遺構各説

(1) 甕棺

第1トレンチの中央部で検出された小児棺である。1号土坑に隣接している。掘形は直径54cmのほぼ円形を呈する。掘形は斜めに掘り込まれ、棺を埋置している。上棺、下棺ともに壺形土器を使用しており、いずれも頸部を打ち欠いている。主軸はほぼ北東-南西にとる。時期は弥生時代後期前半であろう。

(2) 土坑

1号土坑

第1トレンチの中央部で検出された。楕円形のプランを呈し、甕棺に隣接している。長径約1m、短径は66cm、深さ約30cmを測る。主軸を北西-南東にとる。坑底に接して、甕の底部の破片が出土した。その他埋土から土器片が出土した。

2号土坑

第1トレンチの拡張部北西隅で検出された。不整形のプランを呈し、一部調査区外にかかっている。長さ約110cm、幅約55cmを検出した。最も深い部分で深さ約30cmを測る。出土遺物はみられなかった。

3号土坑

第1トレンチの西端で検出された。不整形のプランを呈し、長さ85cm、幅66cm、深さ約10cmを測る。坑内にビット2が検出

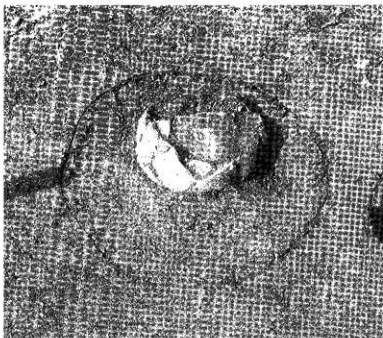


Fig. 6 甕棺



Fig. 7 1号土坑

された。出土遺物はなかった。

4号土坑

第1トレンチの拡張部東隅で検出された。楕円形のプランを呈し、長径70cm、短径48cm、深さ15cmを測る。主軸を南北にとる。埋土から土器片が出土した。

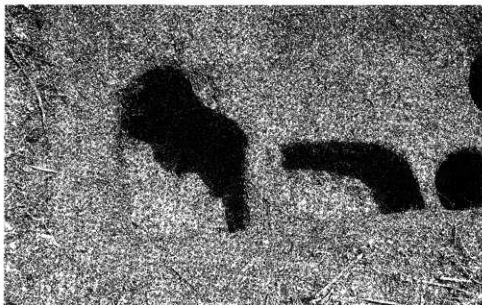


Fig. 8 2号土坑

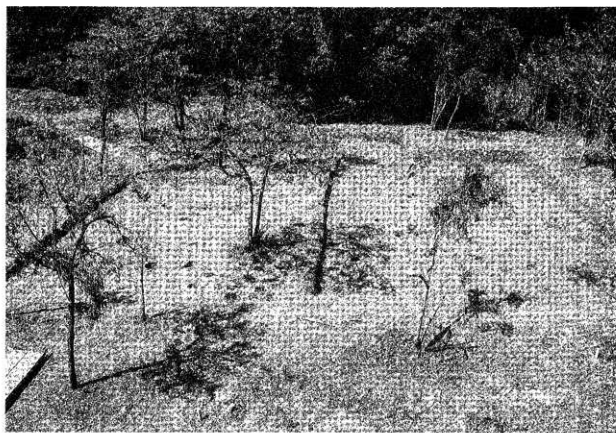


Fig. 9 調査区全景(東から)

Ⅲ. おわりに

今年度の調査の目的のひとつに5号墓の北側について、墳墓遺構の広がりを確認することがあった。しかし、結果は小児用の甕棺墓が検出されたのみであった。甕棺の遺存状況から考えて、本来存在していた墳墓遺構が、削平により消滅したことは考えにくい。平成元年度に調査を行なった8番地、昨年度に調査を行なった7-2番地においても方形周溝墓は確認されていない。このことから考えて、平原1号墓、5号墓の北側には方形周溝墓はもともと存在しなかったと考えられる。

それでは、南側についてはどうであろうか。指定地の南側は現在すでに住宅が建ち並んでいるため、旧状を窺い知る手掛かりは皆無である。ただ、現在平原歴史公園となっている大字曾根851-1、3番地については、昭和63年度に確認調査を行なっている。これによって確認された遺構は、住居跡、溝、ピットなどであり、ここからも方形周溝墓は確認されていない。ここでも遺構はかなり削平を受けており、住居跡はわずかに周壁を残すのみであった。しかし、方形周溝墓とともに住居跡が確認された3-3、4番地の遺構の残存状況から考えると、削平により方形周溝墓が消滅したことは考えにくい。よって指定地の北側および南側については、本来方形周溝墓は存在しなかったと考えられる。指定地の東側についてはまだ確認調査を行なっておらず、西側については方形周溝墓1基(5号墓)が確認されており、ともに方形周溝墓の存在が期待できるのではないだろうか。

次に5号墓の周溝から北に延びる溝については、確認することができなかった。これについては、本来溝が延びていなかったものと考えられる。5号墓の周溝には東側にも1号墓の方への溝が存在するが、これは1.7m程で途切れている。よって北に延びる溝についても同様に途切れているのではないだろうか。

(引用文献)

岡部 裕 俊	1990	『平原周辺遺跡1』	前原町教育委員会
岡部 裕 俊	1991	『平原周辺遺跡2』	前原町教育委員会
角 浩 行	1992	『平原周辺遺跡3』	前原町教育委員会
角 浩 行	1993	『平原周辺遺跡4』	前原市教育委員会
角 浩 行	1994	『平原周辺遺跡5』	前原市教育委員会

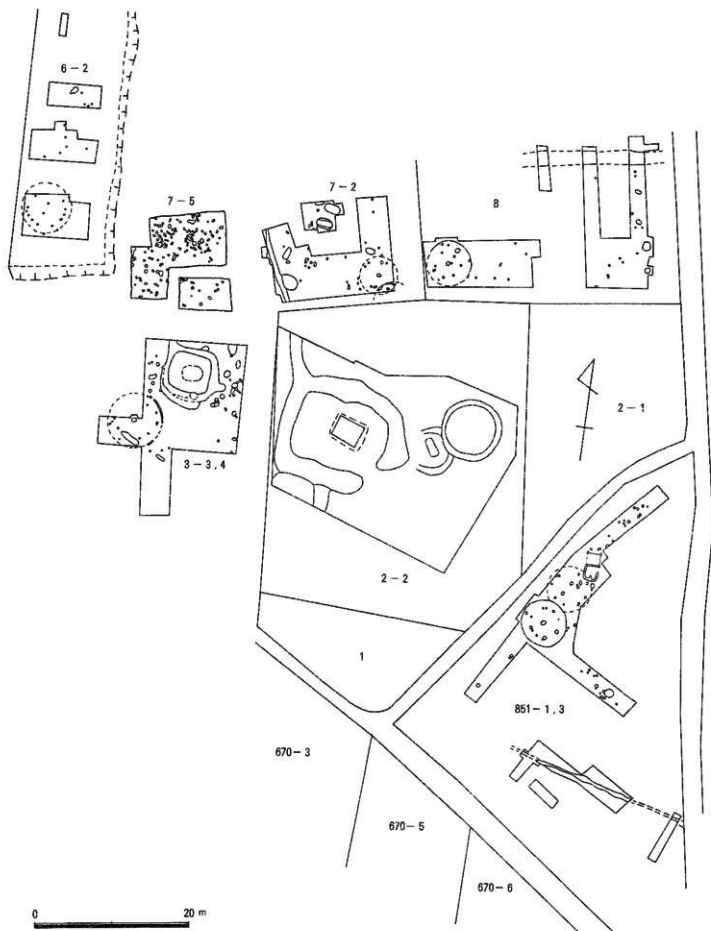
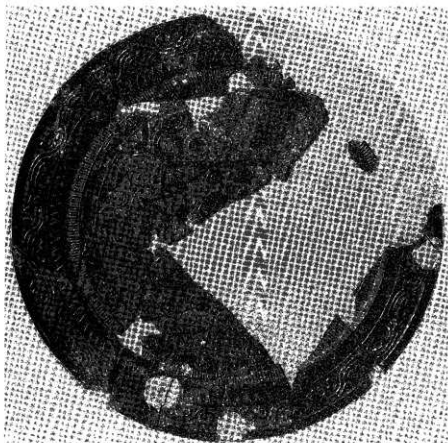
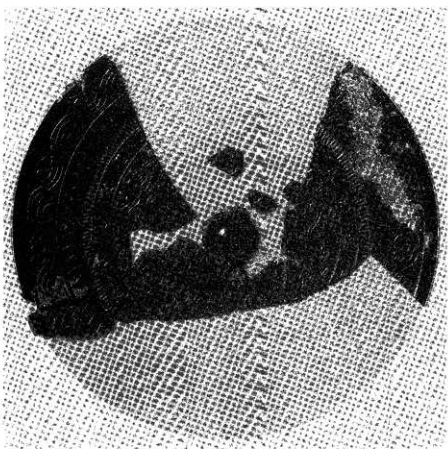


Fig.10 第1～7次調査トレンチ位置図 (1/500)



方格規矩鏡
(1号鏡徑 20.9 cm)



方格規矩鏡
(9号鏡徑 15.1 cm)

Fig.11 平涼遺跡出土品 (重要文化財)

報告書抄録

フリガナ	ヒラバルシューヘンイセキ (6)							
書名	平原周辺遺跡 (6)							
副書名	福岡県前原市国指定史跡「曾根遺跡群」重要遺跡確認調査概要							
巻次								
シリーズ名	前原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第59集							
編集者名	角 浩行							
編集機関	前原市教育委員会							
所在地	福岡県前原市大字有田字平原							
発行年月日	西暦 1995年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ヒラバルシューヘンイセキ 平原周辺遺跡	前原市大字 有田字平原			33° 32'	130° 14'	1995. 2. 1~ 3.31	120	重要遺跡確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
平原周辺遺跡	墳墓群集落	弥生中期 ~後期	方形周溝墓 1基 木 棺 墓 1基 土 坑 5基 円形住居跡 2軒	弥生土器・石器				

平原周辺遺跡

(6)

前原市文化財調査報告書

第 59 集

平成 7 年 3 月 31 日

発行 前原市教育委員会
福岡県前原市大字前原623番地

印刷 株式会社 津村 愛文堂
福岡市早良区室見 2 丁目16- 8



方格規矩鏡
(18号鏡 径15.9cm)



方格規矩鏡
(2号鏡 径21.1cm)

平原遺跡出土品Ⅰ (重要文化財)